

FINANCIAL HISTORY

---

1776 · ECONOMICS · FREE MARKET

## アダム・スミスと『国富論』

---

個人が利益を追求すれば、社会全体が豊かになる。「見えざる手」——  
経済学という学問はここから始まった。

---

投資と思考の書齋

<https://anni-memo.github.io/investment-library/>

WHAT HAPPENED

## 何が起きたか —— 経済学の誕生

1776年、スコットランドの哲学者アダム・スミスが『諸国民の富の性質と原因の研究』（通称『国富論』）を出版した。アメリカ独立宣言と同じ年である。

スミスは道徳哲学の教授であり、純粋な経済学者ではなかった。しかし『国富論』は、経済の仕組みを体系的に分析した初めての書物として、経済学という学問分野そのものを誕生させた。

全5編、約900ページ。分業の利点から国際貿易、税制、植民地政策まで、経済活動のあらゆる側面を論じた大著である。

---

WHY IT HAPPENED

## なぜ書かれたか —— 重商主義への反論

スミスが『国富論』を執筆した背景には、当時支配的だった重商主義への強い批判があった。

- 重商主義 — 国家が貿易を統制し、金銀の蓄積を国富と見なす考え方。輸出を奨励し輸入を制限する
- ギルド制度 — 同業者組合が生産量や価格を統制し、新規参入を阻害していた
- 東インド会社の独占 — 特定の企業に貿易の独占権を与え、競争を排除していた

スミスはこれらの統制が経済の効率を妨げていると主張した。国家が管理するよりも、個人が自由に経済活動を行う方が、社会全体の富は増大する

これが『国富論』の核心的メッセージだった。

---

WHAT CHANGED

## 何が変わったか —— 「見えざる手」と分業の発見

『国富論』が提示した中心的な概念は二つある。

「見えざる手」（invisible hand）—— 個人が自己の利益を追求することで、意図せずして社会全体の富が増大するメカニズム。市場における価格の自動調整機能を指す。

分業 —— スミスは有名な「ピン工場」の例で分業の威力を示した。一人の職人がピンを最初から最後まで作ると1日20本程度だが、18の工程に分業すれば10人で1日48,000本を生産できる。

- 自由市場は政府の介入なしに資源を効率的に配分できる

- 分業と専門化が生産性を飛躍的に向上させる
- 自由貿易は双方の国を豊かにする（比較優位の萌芽）
- 政府の役割は国防、司法、公共事業に限定すべき

これらの考え方は、その後200年以上にわたって経済政策の基盤となった。自由放任主義（レッセフェール）の理論的根拠として、産業革命期のイギリスの経済政策を方向づけた。

---

#### WHAT REMAINS

### 今に残るもの —— 市場経済の思想的DNA

スミスの思想は、現代の市場経済の根幹に深く組み込まれている。

- 自由市場の原理 ——  
株式市場、為替市場、商品市場。すべて「見えざる手」による価格決定を前提としている
- 自由貿易の論理 —— WTO、FTA、TPP。国際貿易体制はスミスの思想の延長線上にある
- 規制緩和の根拠 —— レーガン、サッチャーの新自由主義改革は、スミスを理論的支柱とした

ただし、スミスは無制限の自由を主張したわけではない。『国富論』には独占の弊害への批判、公共教育の必要性、富裕層への累進的課税の提案も含まれている。スミスを「政府不要論者」と読むのは誤読である。

---

#### FOR INVESTORS

### 投資家にとっての意味 —— 市場は「見えざる手」で動く

スミスの思想は、投資家にとっていくつかの本質的な洞察を提供する。

- 市場は情報を集約する —— 無数の参加者の判断が価格に反映される。これが効率的市場仮説の原型
- インセンティブがすべてを動かす —— 企業の経営者、政策決定者、消費者。全員が自己利益に基づいて行動する。この前提を忘れてはならない
- 独占は非効率を生む —— 競争のない市場では価格が歪む。独占企業への投資は短期的には魅力的だが、長期的には規制リスクを伴う

「見えざる手」は万能ではない。市場の失敗は存在する。しかし、市場メカニズムの力を理解することは、投資判断の最も基本的な出発点である。

---

KEY TERMS

## 関連用語

---

### 投資と思考の書齋

<https://anni-memo.github.io/investment-library/>

投資は自己責任です。このサイトの内容は情報提供を目的とし、投資助言ではありません。